

# 世田谷区立図書館 ビジョン

「知と学びと文化の情報拠点を目指して」

平成22年3月

世田谷区教育委員会



## はじめに

世田谷区は良好な生活環境に恵まれ、文化の香りあふれる都市として発展してきた。現在、84万人の区民とともに「いつまでも住み続けたい「魅力あふれる 安全・安心のまち世田谷」の実現を目指している。

世田谷区教育委員会においては、平成17年に「世田谷区教育ビジョン」を策定し、今後10年間の教育の方向性を示してきた。この教育ビジョンの第2期行動計画では、図書館を「地域の学習拠点」として位置付け、その充実に向けて取り組むこととしている。

世田谷区の図書館の歴史は古く、昭和21年に「東京都立世田谷図書館」が区立若林小学校内に開設され、昭和25年の図書館法制定を受け同年10月に世田谷区に移管された。以降、順次図書館の整備を進め、現在は、昭和63年7月に開設した中央図書館と地域図書館15館、さらに地域図書館を補完する身近な施設として開設されたまちかど図書室5室を有するに至っている。

この間の高度情報化の飛躍的進展や、少子高齢化の到来による区民のライフスタイル等の変化により、期待される図書館の役割も大きく変化してきている。

こうした変化を踏まえつつ、今後概ね10年間の世田谷区立図書館の方向性を定めるため、様々な視点から検討し、ここに「世田谷区立図書館ビジョン」をまとめた。

巻末に、「2020年 世田谷区立図書館の利用体験イメージ」を載せ、立場の違う3人の利用者を登場させて、それぞれに図書館を利用してもらった。

今後は、区民の要望に適切に応えられる図書館運営を目指していくと共に、各章に掲げた考え方や施策を通して、更なる進歩を遂げる図書館の構築に取り組んで行くものである。

折りしも本年は、我が国で初めて国民読書年として定められた年である。

平成22年3月

世田谷区教育委員会

